

05年サケ・マス

単位：数量，1000トン

年	漁獲(生産)			加工 マサ	輸入 生冷	輸出 生冷	消費地			消費支出		在庫	日露 協定	アキ サケ	北海道	
	サケ	マス	養ギン				生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)				道	州
16	245	13	10.0	110.4	239.5	61.4	24.1	66.3	46.8	3,256	1,817	109.4	7.2	239.4	194.3	45
17	229	17	13.0	106.5	224.9	66.0	24.5	57.9	44.6	3,061	1,786	108.5	7.1	222.8	183.3	40
%	93	131	130	96	94	107	102	87	95	94	98	99	99	93	94	88

単位：価格，円/kg

年	秋 サケ	北海道	本 州	輸 入	輸 出	消費地			消費支出	
						生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
16	214	219	192	432	148	641	490	654	3,894	2,244
17	259	260	254	482	223	663	558	675	3,823	2,166
%	121	119	132	112	151	103	114	103	98	97

漁獲量

17年の北洋サケマス漁業は、ロシア200海里枠が中型船3,611トン（前年3,830トン）、小型船3,510トン（前年3,380トン）で中型船減少、小型船増加となった。入漁料は中型・小型とも292.5円/kgで前年並みであった。また、漁況はベニ・マスが増加、トキが減少であった。またオホーツク建マスは増加した。

日本200海里枠3,560トンでほぼ前年（カラフトマス主体3,660トン）並みであった。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道5,255万尾（前年5,559万尾）、本州1,195万尾（前年1,374万尾）、トン数では北海道18.3万トン（前年19.4万トン）、本州3.95万トン（前年4.52万トン）であった。

北海道では前年を引続き下回ったものの水準としては高く3年続きの豊漁で、本州では主体の岩手県を始めやや減少となった。特に盛漁期には大型クラゲの出現もあり、漁獲の伸びを欠いたのが減少の一因。

価格は、北海道、本州とも水揚げの若干の減少と、輸出が好調の上、買値が昨年を上回ったこともあり、周年を通じて、堅調相場が続いた。

魚体は、北海道3.49kg（前年3.49kg）、本州3.31kg（前年3.29kg）で、今年は北海道、本州とも前年並みであった。

国内養殖銀ザケは、引続き1.3万トン（前年1万トン）程度であったが2年連続して増加した。

輸出入

17年のサケマス輸入量は、22.5万トンで前年（24万トン）をやや下回った。

本年は主に天然物がやや増加したものの、養殖系の減少を反映したものである。

天然物の国別輸入量は（全てのサケマス類）、米国3.2万トン（前年3.2万トン）、カナダ0.7万トン（前年0.7万トン）、ロシア3.2万トン（前年2.5万トン）であった。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケ、は世界的に生産も伸びているが、本年は特にEU、米国、中国等の需要も伸びているため、日本の優位性も崩れつつあるとともに、グローバル化している魚マーケットの分散化傾向を反映している。本年の国別輸入量はチリ11.2万トンで前年の12.2万トンを下回り、ノルウェーも3.3万トンで、前年（4.3万トン）を下回った。またニュージーランド、デンマーク、オーストラリア等からの輸入は

引き続きみられている。

輸入価格は、482円で本年は世界的な旺盛なサケ需要の結果を受けて前年（432円）を上回った。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは本年も順調で、国内漁が好漁であったことや中国での買入価格の上昇もあって、為替円高にも拘わらず6.6万トンと前年(6.1万トン)をやや上回った。

輸出先は、依然中国5.7万トン（前年約5万トン）で本年も90%近くで多くシェアは高かった。続いてタイ5,677トン、韓国1,586トン、台湾1,364トン、ベトナム574トンであった。

また輸出価格は、東アジアの需要も強く、特に中国での買値の上昇もあって、前年（148円/kg）を大幅に上回る223円/kgであった。したがって、こうした輸出攻勢は当分続きそうな気配がみられる。

総供給量

本年は輸入量が再度養殖系の減少及び国内秋サケ漁が前年をやや下回ったことで、期首在庫が多かったものの、総供給量は、前年をやや下回る55万トンとなった。

	単位：トン		
	16年	17年	対比（%）
総供給量	564,300	548,500	97
沖獲漁獲量	13,500	13,800	102
秋サケ漁獲量	239,400	222,800	93
建マス漁獲量	8,500	12,000	141
ギンサケ漁獲量	9,800	13,000	133
輸入量	239,500	224,900	94
繰越在庫量	115,000	128,000	111
輸出	61,400	66,000	107

消費地入荷量と価格

サケの消費地入荷量は、生2.5万トン（前年2.4万トン）、冷5.8万トン（前年6.6万トン）、塩4.5万トン（前年4.7万トン）であった。

本年の入荷の特徴は、このところの2年続けて減少していた生鮮が再度増加したこと、また冷凍原料は輸入養殖物と国内秋サケの減少を反映した入荷であった。

平成年代に入って順調に伸びてきた生秋サケは、切り身、生フィレーでの旬の販売がすっかり全国的に浸透し、本年も前年を上回った。しかし家計支出でみると生、塩とも金額、数量ともやや減少している。

価格は、生663円（前年641円）、冷558円（前年490円）、塩671円（前年654円）となった。

本年は産地では秋サケの高値、輸入系サケの高値もあって、消費地市場でも生鮮、冷凍、塩蔵とも、何れもやや強含み推移であった。